

有明海の干潟漁



毎日映画コンクール記録文化映画賞
日本紹介映画コンクール金賞
科学技術映画祭 長官賞
キネマ旬報ベストテン第1位

朝、見渡す限りの泥の海へ押し板に身をたくしてのりだしていく

文化庁芸術作品賞
教育映画祭最優秀作品賞
日本産業映画・ビデオ大賞
文部省特選 科学技術庁推奨
日本映画ペンクラブ賞第1位



ムツゴロウ

●価格=210,000円(消費税別)

●記録映画 ●規格=16ミリ・カラー/33分

●企画=国立歴史民俗博物館

●製作=(株)桜映画社 ●協力=文化庁



ムツカケに使う鉛で固めた五本の針



ムツカケ 有明海漁業実況図(近世末期の作)



ガタハゼ

●——すいせんの言葉

科学ジャーナリスト 岡部昭彦

水や泥の中に潜む姿なき獲物が、
巧みな手さばきで面白いようにたぐり寄せられる。
手先に伝わるわずかな感覚情報を見事に体現した的確な腕前に、思わず見惚れてしまう。そこには、泥と汗にまみれた
“干潟の名人”たちのはりつめた姿があった。
映画には、この海を業(なりわい)の場とする漁民の編み出した
17種類もの伝統漁法が紹介される。
広大な干潟の懐は深い。画面の背景には、
収録しきれない技術がもつとあるのだろう。
人と水の小動物たちの攻防は知恵くらべてある。
近世末期の絵図にも残る漁法はすこぶる興味深い。
漁民たちは優れてユニークな動物習性の観察者であり、
それを自在に駆使する技術者たちであった。
有明の干潟は魚や貝の宝庫である。
漁民たちは、海の動物たちの行動習性を
全身で知りつくした“海のファール”なのだ。
もし、彼らがこれを文章にすれば、
ゆうに一冊の比類なき「干潟動物記」が得られるにちがいない。
豊かな海と伝統漁法が、この汚染列島になお生きつづけ、
それが民俗・生物の映像誌に採集されたことに素朴な感動を
覚える。一見、われわれ日本人に宿るこの人間的感受性を
喪失する日の来ないことを願わずにはおれなかった。



四ツ手網(タナジビ)



ヒヤーギヤーオン

●配給



ムツカケ 一瞬の手さばきでまき

●——鑑賞の手引き

文化庁文化財保護部伝統文化課 神野善治
文化財調査官

すっかり潮の引いた有明海の干潟には、見渡す限りの灰色の泥の海が広がっている。耳を澄ませてみると、その干潟がブツブツと音をたてていることに気付く。無数の蟹やアゲマキなどの貝類、トビハゼやムツゴロウなどの魚類などが発している音なのである。

有明海は「九州の宝物庫」といわれる。とりわけその干潟は、わが国でも他に例を見ない広大な規模を持ち、そこに棲む生物は、種類が豊富であるばかりでなく、非常に珍しいものがあることが知られている。それらは、栄養分に富んだこの干潟の泥土（ガタ）によってはぐまれてきた。そして、それらの魚貝類によって沿岸の人々の暮しが支えられてきたのである。

干潟の漁法では、潮の動きや泥土（ガタ）との対応の仕方に目を見はらせる。ガタに足を踏み入れようとしても腰まで埋ってとても動きがとれないが、通称ガタスキーとも呼ばれる押し板（ハネイタ）を駆使して、自在にガタを滑り目的の漁場に至る。獲物がひそんでいる穴を見定め、農具に似た鍬（クワ）や雁爪（ガンヅメ）で掘り出したり、浅い所に居るものは金属製の道具で搔きとる。時には棲息穴に細いカギ棒を押し入れて引き出したり、太い棒を突き込んで穴をあけ手を入れてとったり、毛筆の先を入れて誘い出すなど、いずれもそれぞれの魚貝の生態にあわせた素朴ながら巧みな技法が工夫されている。

なかには、誰もが容易に真似のできない漁法に習熟してみごとな名人芸を見せてくれる者もある。しかも、今も行われている漁法の多くが、江戸末期の絵図に描かれた技法と、ほとんど差がない。おそらく、干潟の漁法が自家用のオカズ採りを主な目的にしてきたために、生産性は低くても伝統的な技法が守られ、古い時代に完成された姿を今日に伝えているものと思われる。素朴な技術であるがゆえに、自然と人間のつき合い方の基本的なあり方を教えてくれる民俗であるといえよう。



映画に収録された伝統漁法

漁具	漁法	魚貝類
網	ガタハゼ	ワラスボ
石壘	スクイ	ボラ他
板鍬	ホリムツ	ムツゴロウ
板鍬	アゲマキホリ	アゲマキ
丸太・鉄鈎	ネジボウ(短)	ウミタケ
丸太・鉄鈎	ネジボウ(長)	ウミタケ
スポーク	ヒャーギャーオン	ハイガイ
竹竿・針金	アゲマキツリ	アゲマキ
鉄棒	メカジャヒキ	ミドリシヤミセンガイ
鉄棒	ワラスボカキ	ワラスボ
鉄棒	ウナギカキ	ウナギ
竹竿・鈎	ムツカケ	ムツゴロウ
竹筒	タカッポ	ムツゴロウ
手足	シャツバ釣り	シャコ
網	チョツトスキ	ボラ他
網	四ツ手網	ボラ他



アゲマキツリ

●対象

青年(高校・大学)
成人・婦人・高齢者

●用途

地域伝統習俗の理解・保存
一般教養



メカジャヒキ

●撮影協力

佐賀県教育委員会
長崎県教育委員会
佐賀県立博物館
佐賀県有明水産試験場
佐賀県農業試験場
高来町教育委員会
東与賀町漁業協同組合
嘉瀬町漁業協同組合
浜町漁業協同組合
株式会社竹八
七浦公民館
七浦漁業協同組合

●スタッフ

製作＝村山和雄
脚本・監督＝大島善助
撮影＝岩永勝敏・山屋忠司
照明＝浅見良二
編集＝中根信也
解説＝鈴木瑞穂
音楽＝角田 敦
録音＝朝日録音